

傍聴席

「三酔人傍聴問答」の一幕

遠藤 康（角館町住）

童馬と同じ土佐の民権家に「東洋のルソー」と呼ばれた中江兆民がいる。兆民には『三酔人経論問答』という傑作があり、洋学博士、豪傑君、南海先生が洋火酒フレンチに酔いながら問答する趣向である。私も屠蘇ソウソに酔いながら問答を：

豪傑君…先生よ、議会傍聴に行ったって、なんで？

南海先生…初代市長激励と議会諸候の御尊顔を拝むにサ

洋学博士…そう言や議員は在任特例とかで五十数人も：

南海先生…そう。昔のスシ詰め学級の頃を思い出したヨ

豪傑君…彼等は如何に？

南海先生…事情はあろうが欠席・遅刻・早退…があつたのは意外だったなあ：

洋学博士…肝腎の議論は？

南海先生…基幹産業たる農村業と観光産業の位置付け等

豪傑君…教育関係は？

南海先生…時節柄、耐震性校舎や小学校建築規準の件や高校統合の事も話題に出たナ

洋学博士…印象的なのは？

南海先生…ベートーヴェンの「第九」が普遍性ある如く憲法「九条」も普遍的だつ

て事かナ。さあ第九を歌おう！

豪傑君…なにそれ？

洋学博士…分からないの？

（三酔人は「歓喜」を合唱し始めた一幕）



十七年度十二月補正予算

仙北市病院事業会計、仙北市温泉事業会計、仙北市水道事業会計が補正される。

市立角館総合病院事業収益的収入合計一千六百八十九万七千円プラスされ三十二億七千三百二十七万三千円となる。

収益的支出は二十九億七千九百四十二万円である。

温泉事業会計では、予備費を七百七万六千円を減じて営業費にまわすものです。

水道事業費についても、給水量減による収入源による収入源二百十五万二千円にともない、予備費二百六万五千円を減じて営業費にまわすものである。



水沢温泉の源泉